

PAT-NO: JP404270548A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04270548 A

TITLE: COLOR FACSIMILE EQUIPMENT

PUBN-DATE: September 25, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SATOMI, MITSUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MURATA MACH LTD

N/A

APPL-NO: JP03053833

APPL-DATE: February 25, 1991

INT-CL (IPC): H04N001/00, B41J002/525, B41J029/40, H04N001/23, H04N001/387
, H04N001/46

ABSTRACT:

PURPOSE: To add a sender display data with a different print color to a picture data depending on each transmission class such as emergency transmission and confidential transmission and to send the result.

CONSTITUTION: The color facsimile equipment is provided with a sender color memory 11 in which at least part of print colors for sender display are registered in advance depending on each transmission class such as emergency transmission and confidential transmission, a picture synthesis means 12 synthesizing and outputting sender display data whose print color is designated, and a signal processing section 10 which adds the sender display data generated by the picture synthesis means 12 depending on each transmission class such as emergency transmission and confidential transmission at the transmission of the picture data to the picture data read out of a transmission original and sends the result to a called party.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-270548

(43) 公開日 平成4年(1992)9月25日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N 1/00	B	7170-5C		
B 4 1 J 2/525				
29/40	Z	8804-2C		
H 0 4 N 1/23	Z	9186-5C		
		9110-2C		
	B 4 1 J	3/00		B

審査請求 未請求 請求項の数1(全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平3-53833

(22) 出願日 平成3年(1991)2月25日

(71) 出願人 000006297

村田機械株式会社

京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

(72) 発明者 里見 三津雄

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械株式会社本社工場内

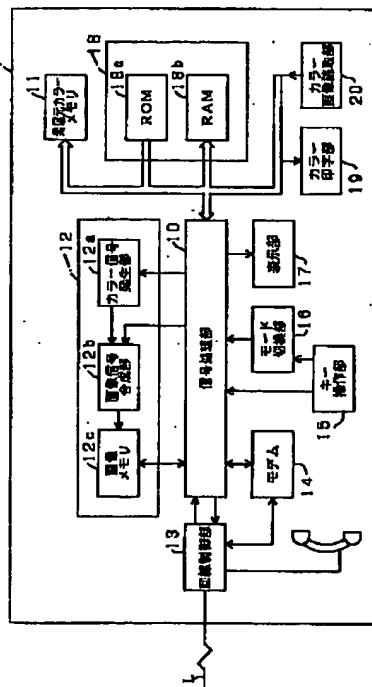
(74) 代理人 弁理士 中井 宏行

(54) 【発明の名称】 カラーファクシミリ装置

(57) 【要約】

〔目的〕 緊急送信や親展送信などの送信種別毎に、印字色の異なった発信元表示データを画像データに付して伝送する。

〔構成〕 緊急送信や親展送信などの送信種別に対応させて発信元表示の少なくとも一部の印字色を予め登録した発信元カラーメモリ11と、印字色の指定された発信元表示データを合成出力する画像合成手段12と、画像データの送信時には、緊急送信や親展送信などの送信種別に応じて上記画像合成手段12で生成された発信元表示データを送信原稿から読み取った画像データに付加して被呼側に送信する信号処理部10とを備えている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】緊急送信や親展送信などの送信種別に対応させて発信元表示の少なくとも一部の印字色を予め登録した発信元カラーメモリと、印字色の指定された発信元表示データを合成出力する画像合成手段と、画像データの送信時には、送信種別に応じて上記画像合成手段で生成された発信元表示データを送信原稿から読み取ったカラー画像データに付加して被呼側に送信する信号処理部とを備えたカラーファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、カラーファクシミリ装置の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】近時、電話回線を介してカラー画像情報を送受信するようにしたカラーファクシミリ装置が開発されているが、このようなカラーファクシミリ装置は、送信原稿の明度に加えて色相、彩度の情報をも読み取って受信側に送信し、受信側では、伝送された信号に応じて、シアン、マゼンタ、イエローの三原色を減法混色によって発色印字させるようにされており、カラーの情報が付加されることによって、白黒伝送のファクシミリ装置に比べて一層正確な画像情報の伝送を行なうことが可能になっている。

【0003】このようなカラーファクシミリ装置では、白黒ファクシミリ装置の場合と同様に、予め、自局の電話番号、名称、IDコードなどの発信元表示データを登録しておけば、ファクシミリ送信を行う都度、登録された発信元表示データや送信時刻、ページ番号などのデータが画像データに自動的に付加されて被呼側に伝送されるので、被呼側では、受信記録紙の印字内容を見るまでもなく発信元表示を見るだけで発信者を識別することが可能である。

【0004】ところが、ファクシミリ受信を行った被呼側で、受信記録紙の各ページ毎に印字された発信元表示を消したいような場合には、発信元表示を逐一マスキングして複写機でコピーするなどしなければならず面倒であった。また、このような問題とは異なり、発呼側から緊急の用件でファクシミリ伝送を行った場合でも、被呼側では受信記録紙の印字内容を読まない限り緊急であることを知るすべがなく、そのまま放置されてスムーズな情報連絡を阻害する要因となっていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記事情に鑑みて提案される本発明は、緊急送信や親展送信などの送信種別毎に、印字色の異なった発信元表示データを画像データに付して伝送するようにし、これによって、受信側で発信元表示の印字色を見るだけで送信種別を判別できるようにしてスムーズな情報連絡を行なえるようにしたカラーファクシミリ装置を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために提案される本発明は、緊急送信や親展送信などの送信種別に対応させて発信元表示の少なくとも一部の印字色を予め登録した発信元カラーメモリと、印字色の指定された発信元表示データを合成出力する画像合成手段と、画像データの送信時には、送信種別に応じて上記画像合成手段で生成された発信元表示データを送信原稿から読み取ったカラー画像データに付加して被呼側に送信する信号処理部とを備えた構成とされている。このような本発明の望ましい実施例では、発信元カラーメモリに送信種別に対応させて発信元表示の印字色などを登録するための登録モードと、通常モードとを切換設定するためのモード切換部を備えた構成とされている。また、この登録モードでは、発信元表示の着色部分を指定して登録するような構成とすることも可能である。

【0007】

【作用】本発明では、緊急送信や親展送信などの送信を行うと、送信種別の制御コードに対応して発信元カラーメモリに登録された印字色の発信元表示データを画像合成手段で生成し、信号処理部では、生成された発信元表示データを送信原稿から読み取ったカラー画像データに付加して送信する。従って、受信側では、受信記録紙に印字された発信元表示の印字色を見るだけで送信種別を直ちに知ることができる。

【0008】

【実施例】以下に、図面を参照して本発明の実施例を説明する。図1は、本発明のカラーファクシミリ装置1の要部構成例をブロック図をもって示したもので、図において、11は後述する発信元カラーメモリ、12は後述する画像データを合成するための画像合成手段、13は電話回線Lの切換制御を行なう回線制御部、14は電話回線Lを介して画像データなどの送受信を行なうモデム、15は各種の操作キー（不図示）を有したキー操作部、16は後述する登録モードと通常モードとを切換設定するモード切換部、17は各種の表示を行う表示部である。また、18はROM18a及びRAM18bを有したシステムメモリ、19はカラー画像データを受けて受信記録紙に印字出力するカラー印字部、20は送信原稿の画像情報を読み取ってカラー画像データに変換するカラー画像読取部であり、これら各部の制御を信号処理部10で集中して行なうようになっている。

【0009】発信元カラーメモリ11は、図2の模式図に示したように、複数のメモリエリア0、1・・・の各々に、緊急送信や親展送信などの送信種別毎に規定された制御コードと、発信元表示の印字色毎に規定された発信元カラーコードと、発信元表示（電話番号、名称、IDコード）のうち、着色部に応じた着色部コードを登録するようになっている。表1は、送信種別毎に規定された制御コードを示したもので、例えば、緊急送信を登録す

3

る場合には、制御コード「00」をテンキーで入力する。

【表1】

送信種別	制御コード
緊急送信	00
航路送信	01
中継回線送信	02
時刻指定送信	03
↓	↓
↓	↓

表2は、発信元表示の印字色毎に定められた発信元カラーコードを示したもので、例えば、発信元表示データの印字色を赤色に登録する場合には、発信元カラーコード「2」をテンキーで入力すれば良い。尚ドロップアウトカラーとは、肉眼では読み取ることができるが、カラーファクシミリや複写機では画像情報として読み取れない色であり、発信元カラーコードを「7」に登録しておけば、受信側の記録紙の発信元表示がドロップアウトカラーで印字されるので、ファクシミリや複写機でコピーして発信元表示を除去することができるようになっている。

【表2】

印字色	発信元カラーコード
黒	0
茶	1
赤	2
↓	↓
↓	↓
ドロップアウトカラー	7

また、表3は、発信元表示の着色部に応じて定められた着色部コードを示したもので、例えば、着色部コード「0」に登録すると、発信元表示全てが登録された発信元カラーコードの印字色による着色の対象となるようにされている。

【表3】

4

着色部	着色部コード
全部	0
電話番号	1
電話番号+名称	2
電話番号+名称+ID	3
↓	↓
↓	↓

10

【0010】画像合成手段12は、発信元カラーコードに応じたカラー信号を発生するカラー信号発生部12aと、カラー画像読取部20で読み取られた画像データを記憶する画像メモリ12cと、送信種別の制御コードに対応して発信元カラーメモリ11に登録されている発信元カラーコード及び着色部コードに応じた発信元表示データを生成し、生成した発信元表示データを画像メモリ12cに格納されている画像データに付加する画像信号合成部12bとを有している。

20 【0011】図3は、画像合成手段12の動作を概念的に説明したもので、受信側の記録紙Pに印字出力される画像データDのうち、拡大図に示したように、発信元表示D1を構成する各画素信号の色を、発信元カラーに変換した画素信号を合成出力するようになっている。

【0012】次に、このような構成の本発明のファクシミリ装置1の動作を図4および図5のフローチャートを参照して説明する。

1. 登録モードにおける動作（図4ステップ1000～1006参照）。

30 ①キー操作部15の登録キー（不図示）を操作すると、信号処理部10では、システムメモリ18のROM18aに格納されている登録処理プログラムを起動して、表示部17に送信種別に対応した制御コードの入力を促す表示を行なう（図4ステップ1000、1001参照）。②表1を参照し、テンキー（不図示）を操作して登録しようとする送信種別に対応した制御コードを入力すると、信号処理部10では、表示部17に発信元表示のカラーコードの入力を促す表示を行なう（図4ステップ1002参照）。③表2を参照し、テンキーを操作して登録しようとする印字色の発信元カラーコードを入力すると、信号処理部10では、表示部17に発信元表示の着色部に応じた着色部コードの入力を促す表示を行なう（図4ステップ1003参照）。④表3を参照し、テンキーを操作して着色させようとする着色部コードを入力すると、信号処理部10では、入力されたカラーコード及び着色部コードを制御コードとともに発信元カラーメモリ11に記憶させて登録する（図4ステップ1004、1005参照）。⑤上記②～④の操作を繰り返し行うことによって順次登録を行い、ストップキー（不図示）を操作すると、登録モードを終了して通常モードに

5

移行する（図4ステップ1002～1006参照）。このように登録モードに切り換えれば、ユーザーによって自由に、送信種別に対応させた発信元表示の印字色や着色部を選択して登録することができるようになっている。

【0013】2. 通常モードにおける動作（図5ステップ2000～2013参照）。

①カラー画像読取部20に送信原稿をセットし、キー操作部15によって送信種別に応じた制御コードのキー操作を行うと、信号処理部10では、発信元カラーメモリ11に格納されているデータを参照して、キー操作された制御コードに対応した発信元カラーコードと着色部コードを読み込む（図5ステップ2000～2002参照）。また、送信原稿がセットされた後に、直ちに発呼操作が行われたときには、発信元カラーコードを「0」（黒色）に設定するとともに、着色部コードを「0」（全部）に設定する（図5ステップ2006、2007参照）。②信号処理部10では、キー操作部15の操作によって入力された発呼先のダイヤル信号を電話回線Lに送出して発呼し、被呼側が着信すると電話回線を接続する（図5ステップ2003～2005参照）。③信号処理部10では、ROM18aに格納されている発信元表示データを読み込み、着色部コードに応じた着色部をカラーコードに応じた発信元カラーで着色した発信元表示データを画像合成手段で合成して画像メモリ12cに記憶させる（図5ステップ2008参照）。④信号処理部10では、合成した発信元表示データを電話回線Lを介して被呼側に送出し、続いて、カラー画像読取部20で読み取った送信原稿のカラー画像データを順次電話回線Lを介して被呼側に送出する（図5ステップ2009、2010参照）。⑤1ページ分の画像データの送出が終了し、次ページの画像データがある場合には、再度、④の動作に戻って発信元表示データと画像データの送出を繰り返し行い、画像データの送出が終了すれば、回線を遮断して待機状態に戻る（図5ステップ2009～2013参照）。このように、本発明のカラーファクシミリ装置によれば、緊急送信や親展送信などの送信を

6

行くと、自動的に、送信種別に対応した印字色の発信元表示データが付加された画像データが被呼側に送信されるので、被呼側では、発信元表示データの印字色を見るだけで送信種別を知ることが可能となる。

【0014】尚、登録モードにおいて、例えば、親展送信に対応させた発信元カラーを上述したドロップアウトカラーで登録しておけば、被呼側では親展受信して印字出力した受信記録紙を複写した場合に、発信元表示を複写しないようにできるため、発信元表示を逐一消すような手間を削減できる。

【0015】

【発明の効果】以上の説明から理解されるように、本発明のカラーファクシミリ装置によれば、緊急送信や親展送信などの送信種別毎にユーザーで任意の発信元表示カラーを登録しておくだけで、ファクシミリ送信時には、自動的に送信種別に応じた印字色の発信元表示データを付加した画像データが送信されるので、受信側では、記録紙の発信元表示の印字色を見るだけで送信種別を判別することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のカラーファクシミリ装置の要部構成図である。

【図2】図1のカラーファクシミリ装置における発信元カラーメモリのデータの記憶状態を示した模式図である。

【図3】図1のカラーファクシミリ装置における画像合成手段の動作を説明する概念図である。

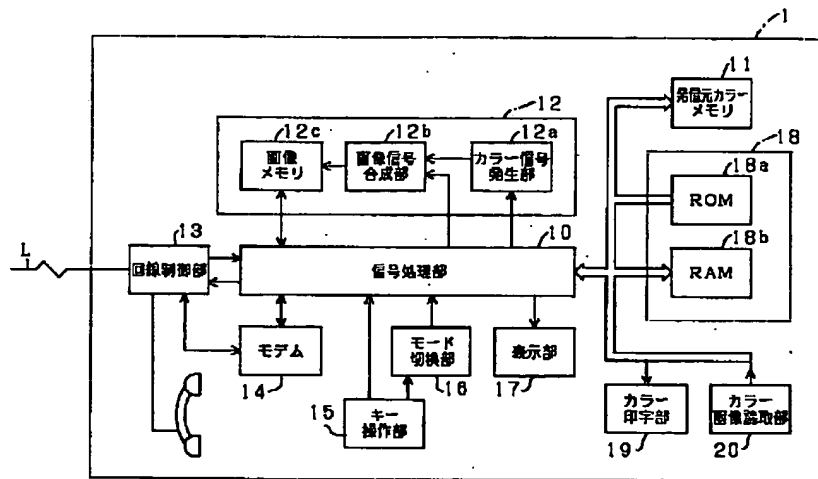
【図4】図1のカラーファクシミリ装置の登録モードの動作を説明するフローチャートである。

【図5】図1のカラーファクシミリ装置の通常モードの動作を説明するフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 カラーファクシミリ装置
- 10 信号処理部
- 11 発信元カラーメモリ
- 12 画像合成手段

【図1】

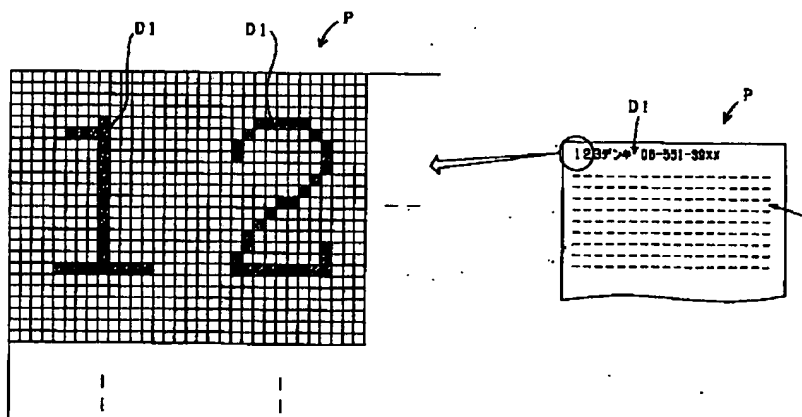


【図2】

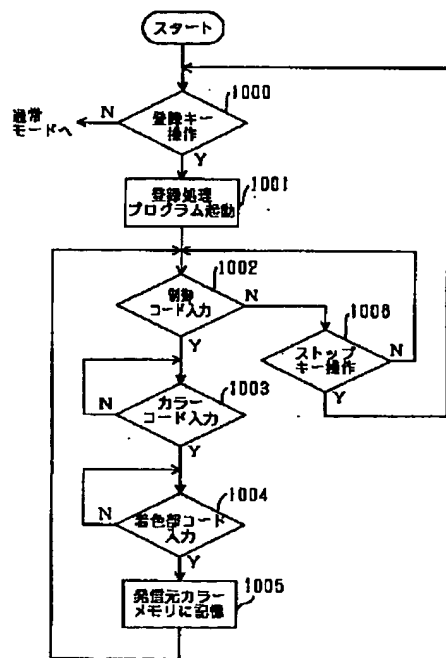
11

メモリ エリア	制御コード データ	発色元カラー コードデータ	着色部 コードデータ
0	01	0	0
1	02	3	1
1	1	1	1
1	1	1	1

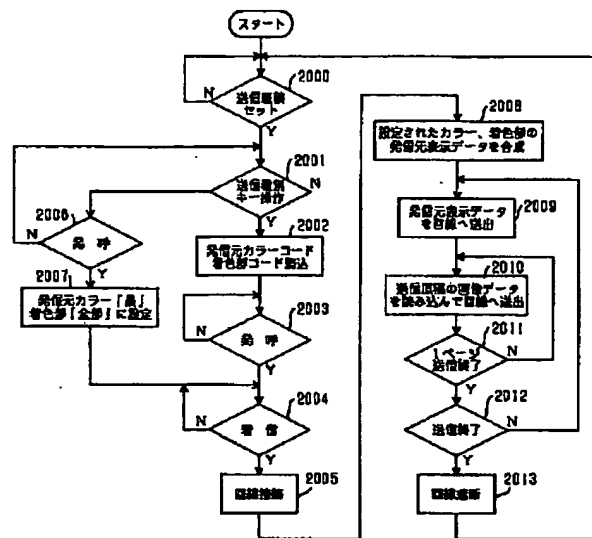
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁶

H 0 4 N 1/387

1/46

識別記号

片内整理番号

F I

技術表示箇所

8839-5C

9068-5C